

東日本大震災・原子力災害伝承館

令和4年度 事業実績

資料 2



伝承館は、東日本大震災と福島第一原発の事故による未曾有の複合災害の記録と教訓を、国や世代を超えて継承し、復興に向かう福島の今を発信するため、令和4年度は特に以下の方針のもと取組を進めてきた。

● 2022年度の基本方針

1. 新型コロナ感染対策を十分に実施
2. 複合災害の正確な情報発信と風化の防止
3. 魅力ある企画展や地域交流イベントを実施
4. 地域の皆様により身近に、より愛される施設となる取組
5. 効果的な広報活動



（１）入館者数の状況

● 2022年度 72,016人（2月末現在）

（団体：49% 個人：51%）

※R4目標：60,000人

● 2021年度 58,271人

（団体：40% 個人：60%）

※R3目標：50,000人

● 開館からの累計 174,037人

（団体：39% 個人：61%）

（２）教育旅行等による入館状況

開館当初から教育旅行の訪問先として誘致に取り組み、県内外の多くの学校に来館いただいている。

● 2022年度 延297校 17,751人（2月末現在）

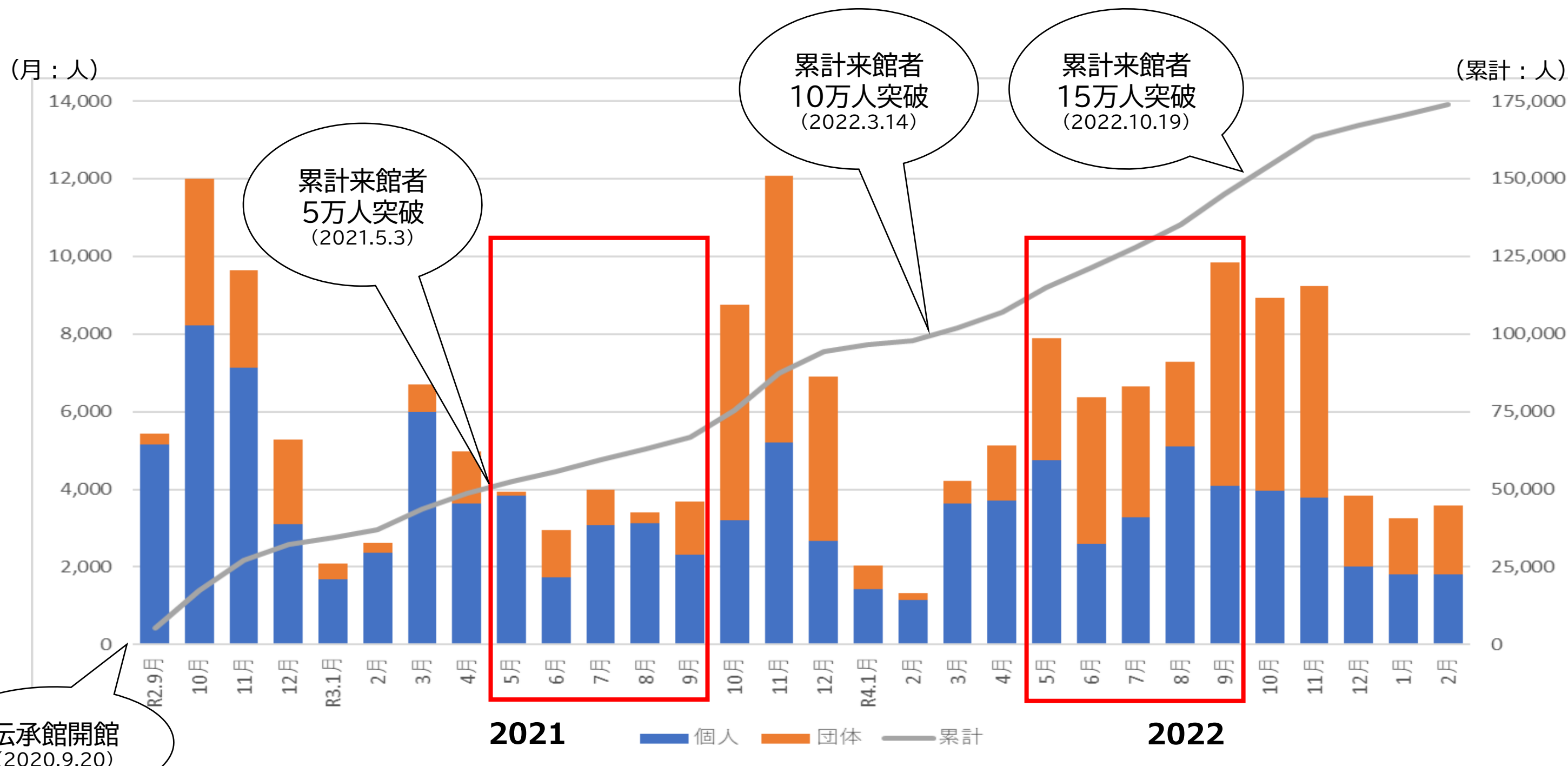
（小学校53、中学校104、高校134、特別支援6）

- ・県内の学校：延べ189校 11,236人（63%）
- ・県外の学校：延べ108校 6,515人（37%）

● 2021年度 延269校 17,105人

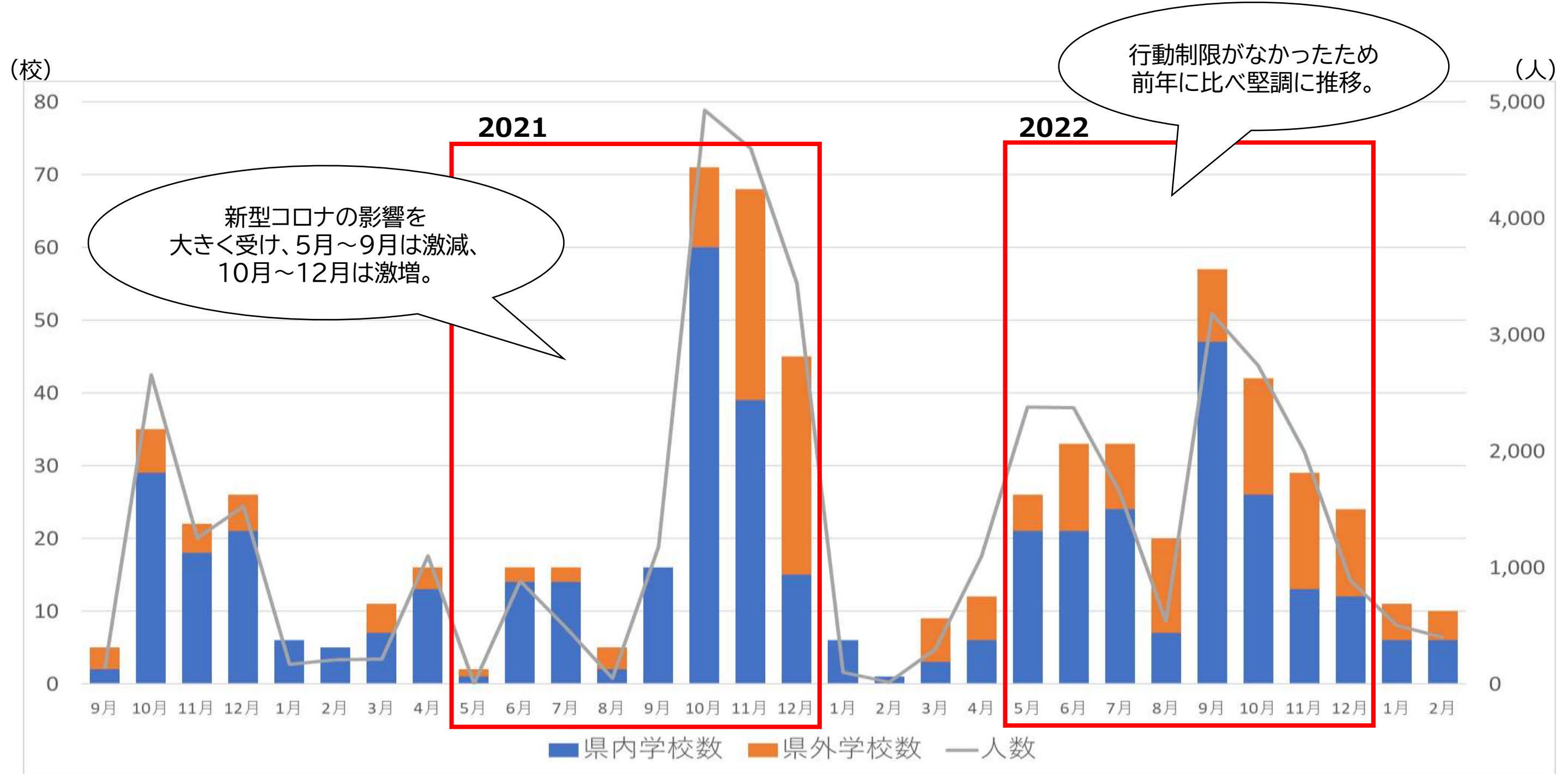
（小学校43、中学校104、高校117、特別支援5）

（県内の学校：68%、県外の学校：32%）



✓ 開館後、新型コロナウイルス感染症の影響を受けるも、来館者数は堅調に増加
累計来館者数⇒2022年3月に**10万人超**、2022年10月に**15万人超**

✓ **2022年は行動制限がなかった影響で5月～9月が昨年度より大幅に増加**
5月～9月の来館者数⇒2021年：17,978人、2022年：38,067人 (**2.1倍**)



- ✓ 2021年度は新型コロナウイルスの影響で5月～9月が激減。その後行動制限が解除された10月～12月に激増。（2021年度の受入人数：17,105人）
- ✓ **2022年度**は行動制限がなかったこともあり、**5月以降も**秋のハイシーズンまで**堅調に推移**。トータルでは**2021年度を上回る17,751人**（2月末現在）を受け入れ。

- ・開館日は4回講演（午前・午後それぞれ2回）
約9,190人が聴講（2月末時点）

- ・32名の語り部が登録（2月末時点）
- ・伝承館スタッフ5名も講演実施

- ・語り部の技術向上と交流のため、**語り部研修を2回実施**

第1回（2022.6.19-20） 16名参加

講師：気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館

館長 芳賀一郎氏「東日本大震災時における向洋高等学校の避難動向」

第2回（2023.2.22-23） 24名参加

講師：株式会社インソース 森りか氏「プレゼンテーション研修」



＜講話を聴いた方の感想＞

- ・語り部の活動がとても尊いものだと思います。ご自身のプライベートを見ず知らずの我々に話していただきありがとうございました。とても勉強になりました。
- ・故郷への思いがよく伝わってきました。たくさんの思いを40分で語っていただきありがとうございました。
- ・語り部こそすべての人に聞いてほしい。
- ・大きな災害にあったこともなく、自分のこととして考えたことがなかったが、特に語り部の方の実体験を聞かせていただいて、大変考えさせられた。

○米国EPA長官来日時の語り部講演（2022.9.2）

米国EPA（環境保護庁）のリーガン長官が、来日時に東日本大震災当時の個人的な経験を聞きたいとの意向があり、横山担当が環境省で語り部講演を行った。



○いわて復興未来塾への参加（2022.9.25）

岩手県で開催された「第2回いわて復興未来塾」の「震災語り部等ガイドサミット」のパネリストとして渡邊舞乃担当が登壇し、自身の経験を語った。



○東洋大学での出張語り部（2022.12.21）

東京都文京区で当館が開催した特別展の関連事業として、東洋大学の協力を得て、大学生に語り部講話を行った。



○震災伝承の取組に協力（2022.6.3、6.13、6.24、7.11）

福島民友新聞社の「震災伝承プロジェクト」に協力し、福島市内の小学校4校で、子どもたちに震災を伝える授業に泉田アテンダントが参加し自身の体験を語った。



2023年2月22日から25日を臨時休館とし、展示の更新とメンテナンスを実施。

1. プロローグシアターの一部モノクロ映像をカラーに変更

2. シアタースロープ壁面年表のモノクロ写真をカラーに変更

⇒来館者から

「子どもたちにとって遠い過去のように感じてしまう」

「モノクロだとリアリティに欠ける」など、

モノクロの映像・写真に関する意見が多数あったことを踏まえ、今回カラーに変更した。



3. タッチパネルコンテンツや壁面などの情報更新

- ・復興への歩みを示した年表、廃炉状況など58カ所の情報・データを更新。
- ・これまで「チェルノブイリ」と表記されていた箇所を、ウクライナ語の「チョルノービリ」との併記に変更。



4. 実物資料の追加・入替

- ・追加資料1点、追加パネル3点、入替資料2点
- ・橈葉町で発見された津波漂流物の鍵盤ハーモニカ
- ・地域と原子力発電所の関わりを示す防災カレンダーなど



1. 企画展「地震と津波のメカニズム」（2022.7.15～10.31）

地震や津波などの災害が起きる仕組みを展示や模型、動画を通して分かりやすく解説。
期間中には子ども向けの実験教室や専門家による講演を行った。



2. 企画展「地図と写真でみる東日本大震災」（2022.11.23～2023.3.21）

福島県の被災地の地図や空中写真を通じ、震災前・震災後・現在を比較し、震災と原子力災害の被害の甚大さや、被災地の大きな変化を理解できる展示。

併せてエントランスホールには双葉町と楡葉町の震災前の様子が分かる模型を展示した。



3. 町村パネル展

2022年度に**特定復興再生拠点区域の避難指示が解除された3町村**について、それぞれの町村の協力を得て、エントランスホールで**パネル展を実施した。**

○葛尾村パネル展（2022.7.9～9.16）

6月12日に葛尾村の避難指示が解除。

帰還困難区域で初めて住民の帰還が実現した。

葛尾村のこれまでの歩みを写真や動画、解説パネルなどで紹介した。



○大熊町パネル展（2022.8.12～11.21）

6月30日に大熊町の避難指示が解除。

大熊町のこれまでの歩みを写真や動画、解説パネルなどで紹介した。



○双葉町パネル展（2022.9.17～11.21）

8月30日に双葉町の避難指示が解除。

双葉町で初めて住民の居住が可能となった。

双葉町のこれまでの歩みを写真や動画、解説パネルなどで紹介した。



4. 県外での展示①：東京特別展（2022.12.19～12.25）

首都圏で初となる展示を東京都文京区の文京シビックセンターで開催した。写真パネルや原発事故に関連する被災の実物資料に加え、現在も続く原子力災害の影響や、福島第一原発から首都圏に電力が供給されていたことを示す解説パネルなどを展示した。



＜来場者の声＞

- ・ 福島の復興は進んでいる印象だったが、双葉町と大熊町の展示をみてまだまだこれからだと思った。
- ・ 東京都内のほか全国の主要都市で開催してほしい。
- ・ 復興に努力されているのが伝わった。福島の商品を利用したり、訪問したい。

※関連事業として、2022.12.21に東洋大学で大学生を対象に語り部講演などを実施。（再掲）



5. 県外での展示②：羽田空港特別展 (2023.2.17～2.23)

羽田空港で震災と復興を伝える特別展（県主催）。今年度避難指示が一部解除された町村の写真パネルや実物資料（小学校のげた箱）などを展示。



6. UR都市機構パネル展 (2022.4.6～5.16)

UR都市機構の持ち込み企画。2021年度のUR都市機構フォトコンテストの復興部門の受賞作品などを当館エントランスホールに展示。



7. コミュタン福島出張パネル展 (2022.6.25～8.5)

コミュタン福島と連携し、当館の出張パネル展を開催。子どもたちにも分かりやすいよう、被害の甚大さを一目で理解できるパネルを中心に展示。



8. 磐梯山噴火記念館での展示 (2022.9.17～11.27)

当館、磐梯山噴火記念館、福島県立博物館の3者で東日本大震災に関する展示を磐梯山噴火記念館で開催。専門学芸員による講演会も行った。

9. 福島県立図書館出張パネル展 (2023.2.24～4.6)

県立図書館のエントランスで、震災の被害や避難所の様子などを伝える写真パネルを展示。

○セタイイベント(2022.6.22～7.11)

来館者と双葉郡内の方々が震災や復興への願いを込めて短冊を書き、飾って共有することで、風化防止の契機となることを目指して開催。

双葉町両竹地区の竹を館内に設置。
なみえ創成小学校の児童も飾りつけを行った。



＜短冊に書かれた願い＞

- ・大きな災害がなくなりますように
- ・もともと住んでいた人が戻ってこれますように
- ・双葉郡に色々なお店ができますように
- ・双葉郡が明るく楽しい場所になってほしい

○被災地域のあゆみ・魅力発信事業（県主催事業）(2022.9.23)

福島県と連携し、県内の震災伝承施設を紹介するパネル展示や、防災に関するサイエンスショー＆ワークショップを開催。

※「ふたばワールド2022」（双葉地方広域圏市町村組合、双葉町主催）と同時開催。



○3.11メモリアルイベント（県主催事業）（2023.3.11）

震災から12年。犠牲となった方々を悼み、震災の記憶や福島のことを発信することを目的に、メモリアルイベントを福島県と連携して開催。

①トークセッション

■第一部 テーマ「高校生と考える震災伝承」

- ・原町高等学校 2年 佐藤 菜々香さん
 - ・白河高等学校 2年 小山田 理奏子さん
 - ・田島高等学校 1年 星 一留羽さん
- ファシリテーター 常任研究員 青砥 和希



■第二部 テーマ「震災12年の軌跡とこれから」

- ・カンニング竹山氏
- ・当館 館長 高村 昇



②追悼イベント ■ピアノ生演奏、フルート生演奏、追悼花火

③関連イベント

■キャンドルナイト（伝承館 アーカイブ広場）

共催：福島県相双地方振興局

■ただいま おかえり 双葉町キャンドルナイト（双葉駅前広場）

主催：一般社団法人LOVE FOR NIPPON、共催：双葉町



1. 資料収集

(1) 収集点数：11,664点（2月末現在）

累計で約28万点の資料を収集。

(2) 内容

- ・富岡町の福島県立富岡養護学校での内部調査
- ・帰還困難区域に設置されていた看板等の収集
- ・被災ペット保護団体の活動写真を収集
- ・特定復興再生拠点区域の避難指示が解除された地域の写真撮影
- ・浪江町請戸の田植え踊りの撮影や震災前後の田植え踊りの写真を収集



(3) 被災体験の収集開始

東日本大震災と原子力災害に関する様々な体験や想いを後世に残すことを目的に、被災体験を綴った手記や日記などの収集を2023年3月11日から開始した。今後、長く継続的に収集していく予定。



2. 資料閲覧室の充実

- ・約1,900冊を収蔵（2月末現在）
- ・図書データを登録し、インターネット検索機能を追加



○当館の展示見学に加えて、下記プログラムを組み合わせた「一般研修」を実施。

※福島県観光物産交流協会との共同事業

【プログラム】

- ・語り部講話（被災体験の講話 40分）
- ・フィールドワーク（双葉、浪江町内を巡る 60分）
- ・ワークショップ（研修の振り返り 60分）

【参加者数】

260団体 11,088人（2月末時点）
（開館後累計：496団体 23,950人）

▽2022年度 内訳

学校関係	108団体	7,385人
その他団体	152団体	3,703人



＜研修参加者の感想＞

- ・ガイドの方の丁寧な説明を聞きながら、浪江町の復興の歩みを自分の目で確認できた。
- ・当時の状況を知り、体験も含めて聞くことができた貴重な時間でした。
- ・実際に町の様子を見ることで、当時の様子や、人々の気持ちが想像しやすかった。また町ごとの復興の特徴に違いがあることも分かった。
- ・被災というと「物」への意識が強かったが、「人の心」を変えてしまうものだと感じました。命を守るという教育は行っていると感じていたものの、心のケアについては知識、経験共に浅いため、今後身に着けたいと思います。

- 館長及び上級研究員が講師となり、**復興や防災に関する専門的な研修を実施。**
- 今年度は、講義形式の専門講座に加え、上級研究員の企画による研修プログラムも実施。

（１）専門講座（2022年6月～12月）

- ・利用者の希望により、下記講師の専門分野で90分の講義を実施。
（一般研修のフィールドワーク、語り部講話と併せて受講可とした）

【講座一覧】

- ・高村館長 「放射線被ばくと健康影響、リスクコミュニケーション」
- ・安田上級研究員「原子力防災と放射線」
- ・関谷上級研究員「風評、避難における社会心理」
- ・開沼上級研究員「福島復興・廃炉の社会科学、ボードゲーム型復興・廃炉体験で学ぶ福島学」

【受講者数】

11組 181名 内訳：学校関係5組103名、その他（大学、研究機関等）6組78名

<受講者の感想>

- ・現状の原子力政策についても教わることができて大変勉強になりました。
- ・医学的観点や研究結果を通して、科学的な観点から証明された正しい情報を知ることができた。
- ・高校生にも分かりやすい段階まで落とし込んでくださったので、とてもありがたかった。

東日本大震災・原子力災害伝承館 専門講座のご案内

受講者募集

定員の限られた中で、希望者のみ参加できる専門講座を実施いたします。
施設公開について、より専門的に学びたい方のお申し込みを優先して受け付けます。
※ 申し込み締切は、申し込み開始日より前日午後5時です。

開催日：令和4年7月1日～12月28日の間でご希望の日時
9:00～11:00（開館入館10:30） 休館日：休館日
※ 参加費は、希望者により異なります。
※ 定員の限られた中で、希望者のみ参加できる専門講座を実施いたします。

対象：10名様以上でのご来館の方（事前予約で先着4名様まで）

プログラム・料金 各10名以内1人あたりの金額です

プログラム	時間	一般	少年少女	必須
講演会	90分	入館料	入館料	必須
専門講話	90分	1,400円	700円	必須
フィールドワーク	60分	1,000円	500円	オプション
語り部講話	40分	1,000円	500円	オプション

専門講座 下記1～4より選択できます。（無2名以上で選択可）

① 館長・高村 博
「長崎大学放射線医学総合研究所 教授」
分野：放射線被ばくと健康影響、リスクコミュニケーション

② 上級研究員 安田 伸宏
「早稲田大学国際原子力工学研究科 原子力災害・危機管理部門 部門長」
分野：原子力災害と危機管理

③ 上級研究員 関谷 直生
「東京大学大学院理学系研究科放射線医学センター 准教授」
分野：風評、避難における社会心理

④ 上級研究員 開沼 博
「東京大学大学院情報学環 准教授」
分野：福島復興・廃炉の社会科学、ボードゲーム型復興・廃炉体験で学ぶ福島学

お問い合わせ
お申込み先
東日本大震災・原子力災害伝承館
電話：0240-25-4422 FAX：0240-25-4743
http://www.aomori-museum.or.jp/ E-mail: aomori-museum@nifty.jp



専門講座の様子

（２）上級研究員の企画による研修プログラム

○福島学カレッジ（2022年10月～2023年2月 全5回）

- ・ 開沼上級研究員らが講師となり、中高生を対象に、「福島の研究」を
実践する機会を提供。
- ・ 県内外より**中高生13名が参加**
- ・ 伝承館の展示見学や講義、フィールドワークを通じて震災・原子力
災害への学びを深め、大学教授や当館研究員の支援を受けて
研究計画を立案し、最後に研究発表を実施

▽プログラム

- | | | |
|-----|----------|----------------|
| 第1回 | 10/15・16 | 開講式、オリエンテーション |
| 第2回 | 11/12・13 | 研究手法の演習、研究計画作成 |
| 第3回 | 12/26・27 | 現地インタビュー、視察 |
| 第4回 | 1/28・29 | 中間報告会 |
| 第5回 | 2/18・19 | 最終報告会、修了式 |



福島学カレッジ修了式（2023.2.19）

○自治体職員向け研修（2023.2.10）

- ・ 関谷上級研究員が講師となり、新潟県職員（防災担当）を
対象に、被災地域のフィールドワーク等を実施。
（伝承館～福島第一原子力発電所～東京電力廃炉資料館）
- ・ 参加者15名



新潟県職員研修の様子

1. 活動体制

- ・館長及び上級研究員(非常勤)の研究班による研究活動を継続。
- ・**2022年4月より新たに常任研究員4名(常勤)が活動開始。**
- ・常任研究員の募集を行い、2023年4月より1名採用予定。
- ・外部資金(科研費等)獲得のため文科省への研究機関登録を完了。

【常任研究員研究テーマ】

▽青砥 和希

東日本大震災・原子力災害における教育復興
—複数の主体による地域アイデンティティの再構築過程の研究—

▽葛西 優香

復興における祭祀の意味 等

▽静間 健人

原子力災害による広域避難者に関する研究：要配慮者を中心に 等

▽山田 修司

科学技術社会論の枠組みによる「教訓の継承」の展開に向けた基礎調査



2022年4月に着任した常任研究員4名



福島県知事を表敬訪問（2023.2.10）

2. 活動実績

○各研究員活動の研究成果発信（2月末時点）

学術論文5件、講演・講義15件、口頭・ポスター発表14件、その他(取材等)23件

○東京大学×伝承館 体験活動プログラム 共同研究フォーラム2022（2022.9.16）

東京大学の学部学生・大学院学生とともに「帰還困難区域の「街づくり」を考える。」と題して行ってきた共同研究についてフォーラムを実施。（会場：伝承館）



東京大学×伝承館 共同研究フォーラム

○対話福島2023（第1回：2023.1.21-22 第2回：2.11-12 第3回：3.25-26）

各回ゲストを招き、「伝承」の在り方や「被災と復興」の捉え方について、開沼上級研究員との対談や参加者との対話を実施。（会場：伝承館）



対話福島2023チラシ

○「空白を考える」伝承と教育を考える連続公開対談

（第1回：2023.1.16 第2回：2.17 第3回：3.14）

複合災害被災地域における社会教育が直面する課題や求められる現代的論点について、ゲストと青砥常任研究員による対談を実施。（会場：ふたば未来学園）

○第1回東日本大震災・原子力災害学術研究集会（2023.3.16-17）

東日本大震災、原子力災害の研究者等の学術交流と情報交換を初開催。

1 日目 エクスカーション（被災地視察） **参加者68名**

視察先：伝承館、震災遺構浪江町立請戸小学校、中間貯蔵施設

2 日目 研究発表 **発表者68名**（会場：コラッセ福島）



「空白を考える」連続公開対談

○伝承館調査・研究部門活動報告会（2023.3.18）

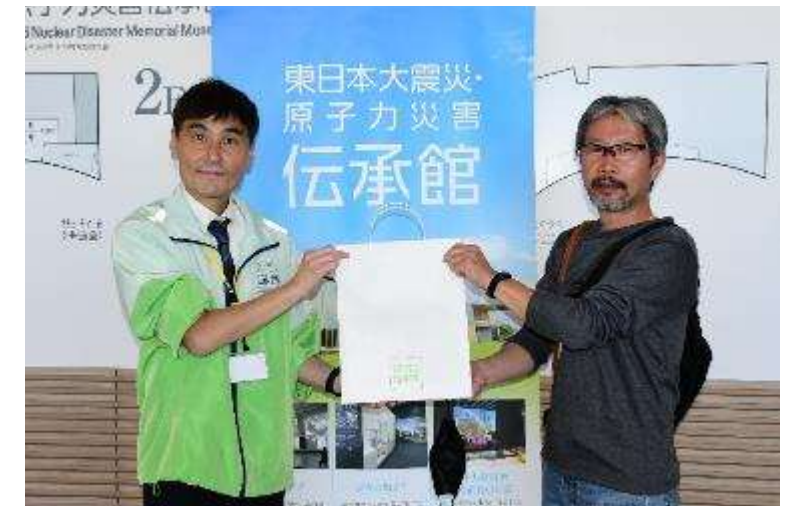
館長、上級研究員及び常任研究員の2022年度の活動内容を報告。（会場：伝承館）



学術研究集会チラシ

1. ニュース機会の提供

- ・企画展やイベント、来館15万人突破時など、積極的にプレスリリースを行い、報道機関の取材につなげている。今年度は20本以上発表。
- ・今年度新たに着任した常任研究員については地元紙が1面トップ等で報じた。その後、全国紙や県内外のテレビが後追いで報道。



来館者15万人突破（2022.10.19）

2. SNSでの情報発信

- ・企画展やイベント、要人・著名人の来館など、Instagram、Facebook、Twitterを活用し積極的に情報を発信。
- ・このうちTwitterでは、タレントのカンニング竹山氏の来館、サッカー元日本代表の中村俊輔氏ら横浜FCの来館、東京初の特別展開催の投稿が1～2万人に読まれた。また、3.11メモリアルイベントについての投稿は合計約20万人に読まれ、反響が大きかった。
- ・昨年度末に完成した伝承館内を紹介する360°動画をYouTubeで公開。伝承館HPのトップに配置し1.6万回再生。



メモリアルイベントに関するツイート



伝承館紹介
360°動画

■ その他（イベント出展）

20

○県内外の防災イベント・風評払拭イベントに出展し、伝承館のPRと福島の正確な情報を発信。

①「RESCUE EXPO in立川」 (2022.8.25～26)

全国消防協会が主催する防災イベント。

場所：東京都立川市

【イベント来場者数】6,130人



③「ぼうさいこくたい2022」 (10.22～23)

内閣府が主催する日本最大級の防災イベント。

場所：兵庫県神戸市(HAT神戸)

【イベント来場者数】約12,000人



④「浜フェス2022」(11.5～6)

福島県が主催する浜通りの風評払拭イベント。

場所：東京都(六本木ヒルズアリーナ)

【イベント来場者数】約5,500人



②「ふくしまフェスタ」(10.1～2)

福島県が主催する風評払拭イベント。

場所：千葉県木更津市(三井アウトレットパーク)

【イベント来場者数】約2,000人



⑤「そなえる・ふくしま2022」(12.11)

福島県が主催する防災イベント。

場所：郡山市(ビッグパレットふくしま)

【イベント来場者数】約2,700人



⑥「ふくしまの高校生が伝える3.11と私」 (2023.3.5)

コミュニティ福島が主催する風化防止イベント。

場所：東京都(東京国際フォーラム)

【イベント来場者数】約200人



- 学校・旅行代理店・行政等への認知度向上と利用促進
- 事故やトラブル防止に努め、満足度向上と継続利用への取組
- 関係団体との連携強化により、プロモーションを展開

【誘客活動実績】

▽ 599箇所（1月末現在）

※学校・教育関連、旅行代理店等を対象とした館内斡旋、訪問営業、商談会参加など



【関係団体との連携】

- ▽東北観光推進機構：「東北教育旅行セミナー（東京/名古屋/大阪/福岡/札幌）」参加
- ▽福島県観光交流課：「令和4年度ふくしま観光商談会」参加
- ▽福島県空港交流課：「福島空港就航先旅行エージェント招請事業」館内対応
- ▽震災遺構 浪江町立請戸小学校：相互の割引券連携（2022年7月1日～）
- ▽県民割参画：「福島県「来て。」割」、「プレミアム付き電子商品券」の対象施設として参画

○政府、自治体、海外など様々な要人等が当館を視察。

①政府関係者視察	28件	延135人
②海外要人等	10件	131人
②自治体関係者視察	18件	延166人
④民間企業等幹部視察	26件	273人
合計	82件	延705人（2月末現在）

※随行者含む



2022.5.25 将来世代応援知事同盟



2022.11.24 EU大使



2022.11.29 駐日外交団



2023.2.18 渡辺復興大臣

○来館者のサービス及び収益向上を目的に、防災グッズ等を製作・販売。

▶**販売実績 1,751千円**（2月末現在）（2021年度：1,727千円 累計：5,179千円）

●販売品目

- ・シャツ ・ブルゾン ・防災対策ボトル5点セット
- ・防災手ぬぐい ・防水ポーチ入りアルミブランケット
- ・8町村キャラクタクリアファイル、ガチャ
- ・避難のころえんぴつ ・オリジナルガイドブック

●販売書籍

- ・ぼくのうまれたところふくしま
- ・福島民報社震災写真集（受託販売）
- ・きぼうのとり（受託販売）
- ・空飛ぶクルマ（受託販売）
- ・福島民友新聞社 証言あの時（受託販売）

【2022年度の動き】

- ▶「空飛ぶクルマ」販売開始（2022年4月～）
- ▶「証言あの時」販売開始（2022年5月～）



館内の
グッズ販売コーナー

○伝承館外での販売

▶Jヴィレッジ、磐梯山噴火記念館、岩瀬書店

○通信販売の開始（2022年11月～）

▶当館HPに「ショップ・通販」ページを作成し、ネットで注文を受付。
伝承館で販売しているグッズ・書籍を取り扱い。

通信販売のHP

